

市 皿焼古窯館 (皿焼12号窯) — 地図 D-4

渥美古窯の一つ『皿焼古窯跡群』(13基)の中で最も状態が良かった「12号窯」を復元保存したものです。日常生活品や特殊製品を焼いた渥美古窯の窯窯の構造が見られる唯一の施設です。



- 開館時間 午前9時～午後5時
 - 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(12月28日～1月4日)
 - 入館料/無料
- ※入館を希望される方は、渥美運動公園 競技場事務室へお申し出ください。



図 伊良湖東大寺瓦窯跡 — 地図 B-4

平安から鎌倉時代に活発に生産活動が展開された渥美古窯の一つで、3基の窯窯が保存されています。奈良東大寺鎌倉再建時の瓦を焼いた窯跡で、「東大寺大佛殿瓦」と刻印された軒丸瓦や軒平瓦、平瓦などの瓦や瓦経、瓦塔などの宗教用具が出土しています。



図 宮山原始林 — 地図 B-5

宮山は、県の最南端近くにあって、高温多湿のため草木がよく茂り、原生林の状態を保っています。樹木は、暖地性常緑闊葉樹を主として、常緑植物と陰地性の草木が密生し、典型的な海岸暖地性の常緑樹林となっています。



図 桜のシデコブシ自生地 — 地図 E-4

シデコブシの分布は、非常に限られています。湿地を好み3月下旬頃、白ないしはピンク色の花をつけます。桜の群落には、約200株が自生しており、伊川津の群落とともに、県下でも有数のシデコブシの自生地となっています。



県 伊川津貝塚 — 地図 F-3

伊川津町郷中全体に広がる大貝塚です。神明社の境内では、貝が1m以上の厚さで堆積したところもあります。貝塚からは、縄文時代後期から晩期の遺物や人骨が出土し、中でも又状研歯のある頭骨や有髹土偶は全国的に有名です。



県 皿山古窯群 — 地図 D-4

皿焼古窯が立地する山の東側斜面に築かれた窯跡で、8基のうち3基が調査されています。ここからは、日常生活に使われた山茶碗や小皿、甕、子持器台や香炉といった宗教用具などが出土しています。窯の保存状態が良好な遺跡です。



県 ハマボウの野生地 — 地図 C-5

西南暖地の海岸付近に自生する落葉樹で、初夏から8月にかけて、むくげに似た黄色の花を咲かせます。温暖な渥美半島に亜熱帯植物が存在し、ここに自生するものが、その分布の北限にあたるものとして県から天然記念物に指定されています。



市 ハマセンダン — 地図 C-5

近畿以西の暖地の海岸近くに生育する南方系の半落葉樹です。8月から9月にかけて、白く緑っぽい小さな花を咲かせます。県内では他に見られず、その生育の北限とみられ、樹齢はおよそ500年と推定されています。



市 泉福寺 — 地図 E-4

天平15年(743)観音比丘尼菊本(渥美重国の娘)が開山との伝承がある泉福寺。鎌倉～室町時代に製作された十一面観世音菩薩立像、薬師如来坐像といった彫刻、江戸時代に整備された参道の石段や、鎌倉～室町時代のもともみられる宗教的な遺構である中世墳墓、樹齢約300年のシイの木など多くの文化財があります。



江戸時代には徳川家康から寺領安堵の朱印状が下され、二代秀忠が鷹狩りの際に宿泊所とするなど、渥美半島でも歴史ある寺の一つです。昭和37年の火災により、本堂、庫裏、一部の仏像などが焼失し、現在の本堂は昭和47年に再建されています。



図 伊良湖岬灯台 — 地図 A-5

昭和4年に開設されたこの灯台は、光度1万7千カンデラで、潮騒が聞こえる半島の先端に立っています。海の難所といわれる「伊良湖度合(伊良湖水道)」で対する神島灯台とともに行き交う船舶の安全を守っています。伊良湖岬観光のシンボリック存在で「日本の灯台50選」に選定されています。



「椰子の実」記念碑 — 地図 B-5

明治31年、民俗学者柳田國男が恋路ヶ浜で拾った椰子の実の話を親友島崎藤村に語り、「椰子の実」の詩が生まれました。昭和11年には、大中寅二の作曲により国民歌謡となりました。ここには、詩・曲二つの記念碑が揃って建てられています。

